

<p>第186回 都市懇サロン レポート</p>	<p>『東日本大震災の復興から考えるこれからのまちづくり』</p>		
<p>講師</p>	<p>平井一男氏、菅原康晃氏、 柳瀬有志氏</p>	<p>開催日</p>	<p>平成26年11月19日(水) 18:00~20:00</p>
<p>講師 プロフィール</p>	<p>[平井氏] (株)東京建設コンサルタント 地域環境事業本部流域文化部</p> <p>[菅原氏] (株)地域計画連合東北復興支援室</p> <p>[柳瀬氏] (株)アルテップ</p>		
<p>お話の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●平井氏：岩手県大槌町復興事業におけるまちのデザイン <ul style="list-style-type: none"> ・復興事業におけるデザイン検討の体制 ・復興事業におけるまちのデザイン (①コンパクトな市街地の再生 ②歩きたくなるまちのデザイン ③事業間調整によるデザイン ④思い出のデザイン) ●菅原氏：福島県新地町での復興まちづくりの経験からこれからの復興まちづくりを考える <ul style="list-style-type: none"> ・「市街地復興パターン概略検討調査」による検討の枠組み ・新地町、防災集団移転促進事業の検討の流れ ・住宅建築相談会の実施、防集見学会と画地の決定 ・新地町の防集の各団地での着工率と入居率 ●柳瀬氏：福島県双葉町における長期避難者の生活拠点の形成の取り組みと課題 <ul style="list-style-type: none"> ・二葉町の現状 ・双葉町の復興まちづくりの取り組み ・「町外拠点」の具体化に向けた留意内容 		
<p>意見交換の概要</p>	<p>○大槌町の復興協議会は継続して行われているのか？ワークショップの参加状況はどうか？ ⇒継続されてはいるが、メンバーは固定化しつつある。WSに関しては、テーマが変わるたびに参加募集しているので、皆さんに参加して頂いている。</p> <p>○大槌町、新地町では、震災前から過疎や生業の課題があったと思う。現在の状況は？ ⇒大槌町では、過疎が進行中で大きな課題となっている。生業に関しては高齢者世帯が多く、子育て世帯が少ないが、これまでにあまり議論されていない。新地町では、人口減少は殆どみられないが、病院移転やLNG備蓄設備の誘致等があり、これらが生業に影響を与えていると思う。</p> <p>○新地町では、国交省の事業により100坪まで補助を受けられるとあったが、実際、100坪を超えて土地を買取した人はどれくらいか？ ⇒150、200坪を買取った人を合わせると全体の半数程度になる。</p> <p>○双葉町の町外拠点規模は、生活を行うには規模が小さいのでは？ ⇒大きすぎると地域に馴染まないことが考えられる。周辺地域との交流にあたり、コミュニティ交流員(2名/100戸あたり)を配置している。</p>		
<p>記録者の ひとこと</p>	<p>各町の地域特性に応じた復興まちづくりの取り組みが紹介されました。活発な質疑のやり取りを踏まえ、今後、復興まちづくりの推進が期待されます。 <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員代理 天野正昭》</p> </p>		